

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No406
(次期学習指導要領にむけた審議まとめの方向性)

③ 総合的な学習・探究の改善点—情報教育との カップリングからマイ探究(個人探究)へ

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

審議まとめの方向性

- ① 「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ② 「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー
- ③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

本日の内容

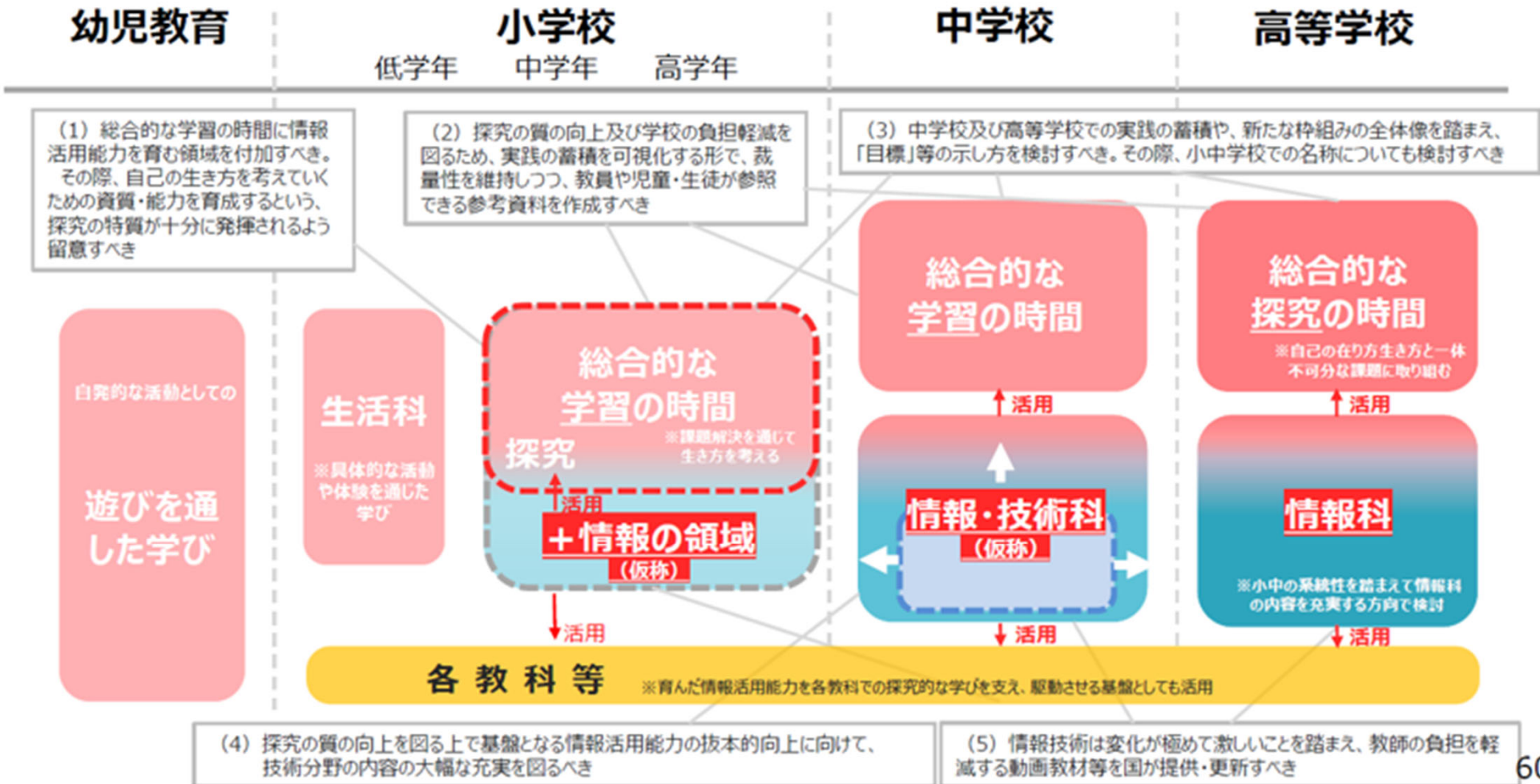
- ① 情報活用能力を基盤として総合的な学習・探究の質を高める
- ② 質の高い探究的な学びの実現を目指して
- ③ 学習者の裁量による「探究」「探究的な学び」

本日の内容

- ① 情報活用能力を基盤として総合的な学習・探究の質を高める
- ② 質の高い探究的な学びの実現を目指して
- ③ 学習者の裁量による「探究」「探究的な学び」

情報活用能力を基盤として総合的な学習・探究の質を高める

『論点整理』（2025年9月25日）



(1) 総合的な学習の時間に情報活用能力を育む領域を付加すべき。その際、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、探究の特質が十分に発揮されるよう留意すべき

(2) 探究の質の向上及び学校の負担軽減を図るため、実践の蓄積を可視化する形で、裁量性を維持しつつ、教員や児童・生徒が参照できる参考資料を作成すべき

(3) 中学校及び高等学校での実践の蓄積や、新たな枠組みの全体像を踏まえ、「目標」等の示し方を検討すべき。その際、小中学校での名称についても検討すべき

(4) 探究の質の向上を図る上で基盤となる情報活用能力の抜本的向上に向けて、技術分野の内容の大幅な充実を図るべき

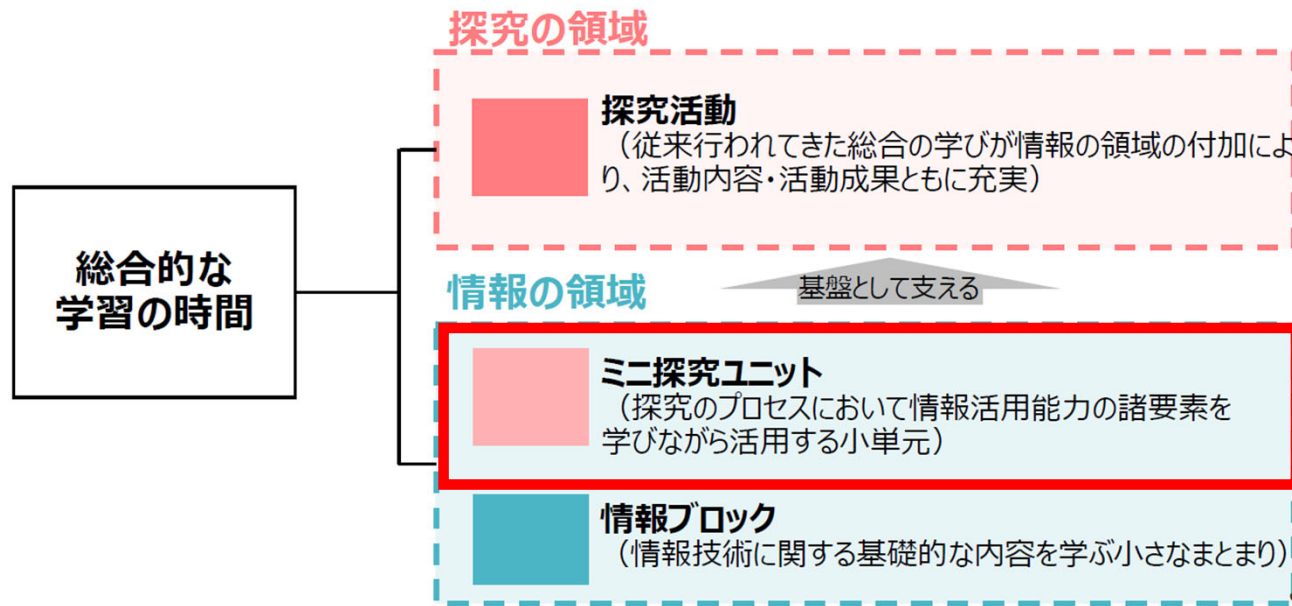
(5) 情報技術は変化が極めて激しいことを踏まえ、教師の負担を軽減する動画教材等を国が提供・更新すべき

本日の内容

- ① 情報活用能力を基盤として総合的な学習・探究の質を高める
- ② 質の高い探究的な学びの実現を目指して
- ③ 学習者の裁量による「探究」「探究的な学び」

1. ミニ探究ユニットで探究のプロセスの型を学ぶ
2. テーマ探究からマイ探究（個人探究）へ
3. 問いと課題の往還によって課題の設定の質を高める
4. 高校の課題研究をどう位置付けるか

ミニ探究ユニットの創設(案)



『生活総合WG 第2回』 (2025年11月10日)

1. ミニ探究ユニットで探究のプロセスの型を学ぶ
2. テーマ探究からマイ探究(個人探究)へ
3. 問いと課題の往還によって課題の設定の質を高める
4. 高校の課題研究をどう位置付けるか

「課題の設定」を重点的に改善 個人探究・グループ探究

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方



自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成



「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)



当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

課題設定の充実

個人探究
グループ探究

総合

生きて働く「確かな知識」の習得
興味・関心が広がる
教材・学習方法の選択を促進
自分の意見を表現する活動の充実
探究的な要素を持つ学習活動の充実
家庭学習の内容を自律的に決められる
ような段階的指導
(家庭学習はじめ学習習慣の確立を含む)

各教科等

児童生徒主体のルール形成や
学校生活改善、行事の創造等
の明確化
(みんなが学てやすいルールや環境の
構築を含む)
納得解を形成しようとすることの
重要性の明文化
(安易な多数決の回避や少数意見の吟
味)

特別活動

考え、議論する
道徳の徹底
(主体的な判断の重要
性、知・徳・体の調和
のとれた発達に向けた、
道徳的価値の対立を
乗り越える必要性や道
徳的実践の強調)

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない
視点としての個別最適な学びと協
働的な学びの一体的充実

科学的・見も生かした
効果的な指導計画・授業方法
児童生徒の学習方略の指導

障害や認知特性等、多様な
実態を踏まえた調整
(教科等、家庭学習含む)

全ての活動の基盤としての
心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

総合的な勤務環境整備

1. ミニ探究ユニットで探究のプロセスの型を学ぶ
2. テーマ探究からマイ探究（個人探究）へ
3. 問いと課題の往還によって課題の設定の質を高める
4. 高校の課題研究をどう位置付けるか

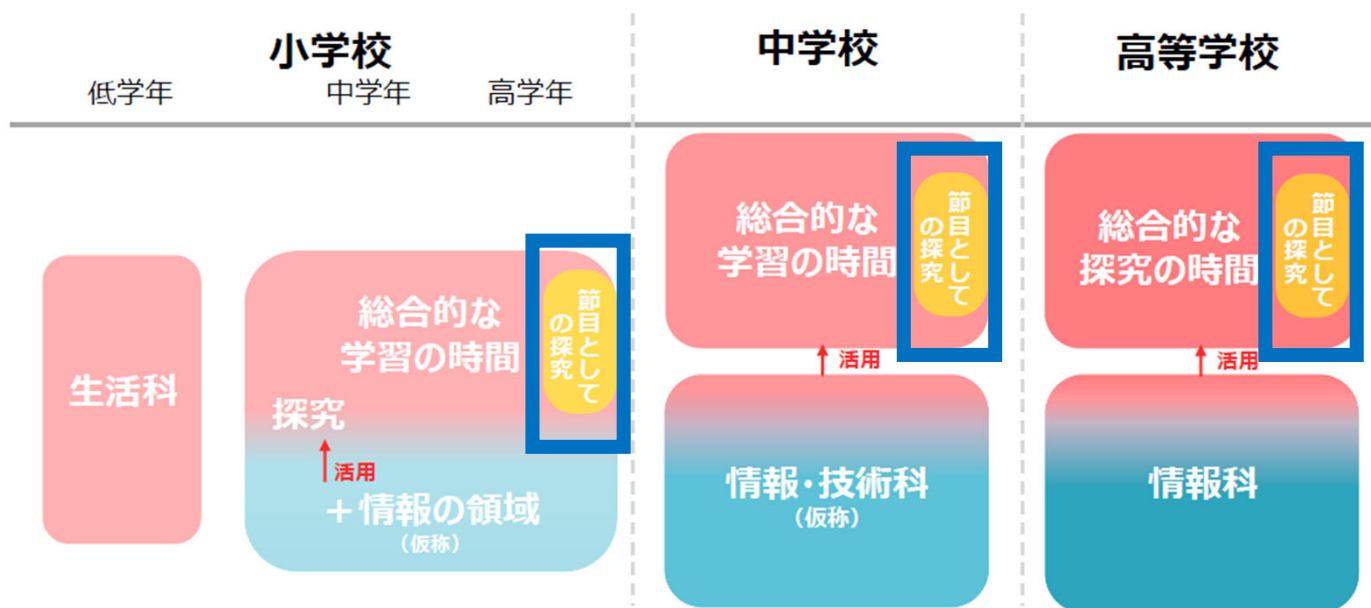
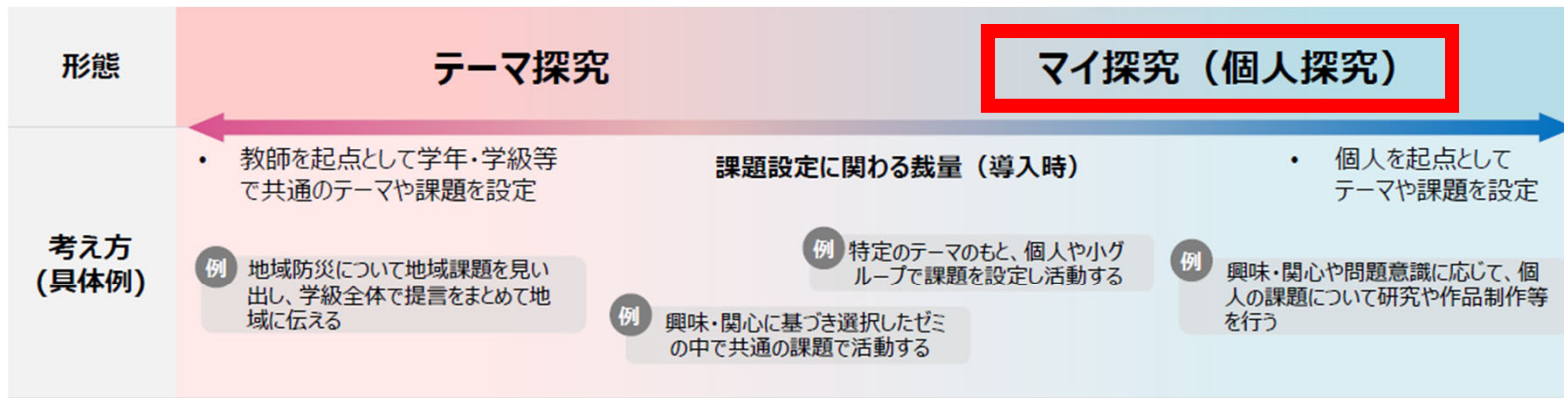
好き 得意をベースとした主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼

『論点整理』（2025年9月25日）

マイ探究の着実な実施

「生活総合WG 第6回」 (2026年4月15日)

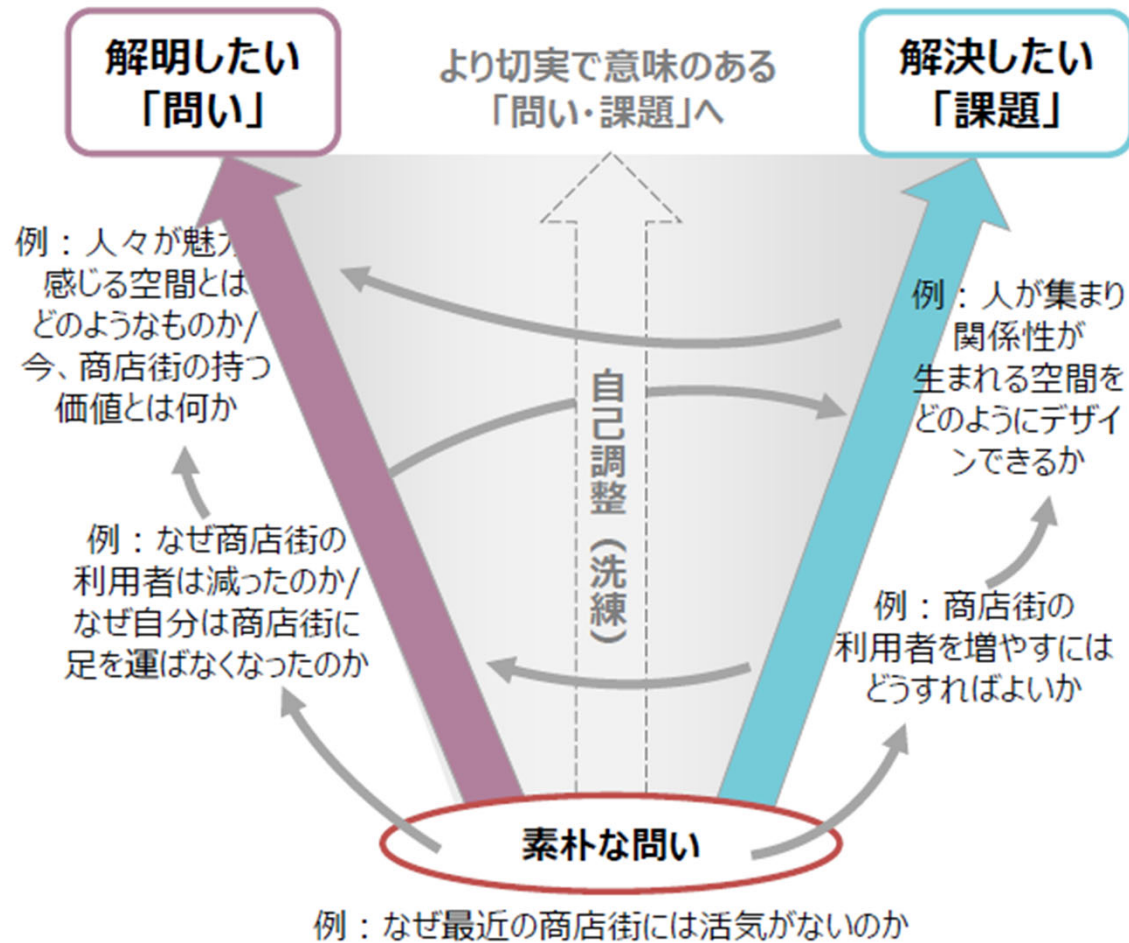


節目としての探究

問い・課題 の往還による課題の設定の仕方

『生活総合WG（第3回）』（2025年12月26日）

1. ミニ探究ユニットで探究のプロセスの型を学ぶ
2. テーマ探究からマイ探究（個人探究）へ
3. 問いと課題の往還によって課題の設定の質を高める
4. 高校の課題研究をどう位置付けるか



大学や産業界と連携した高度な **課題研究** に対して

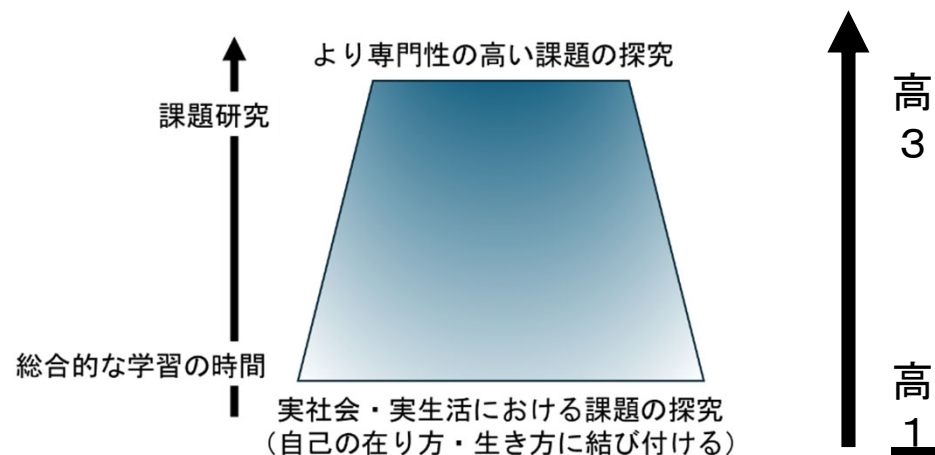
(状況)

- 課題研究では、課題や問いは外から与えられる
- そこでは、自己の生き方在り方に繋がる課題や探究よりも、実社会実生活、学問的な問題の解決に力点が置かれる

1. ミニ探究ユニットで探究のプロセスの型を学ぶ
2. テーマ探究からマイ探究（個人探究）へ
3. 問いと課題の往還によって課題の設定の質を高める
4. 高校の課題研究をどう位置付けるか

(例) 次期学習指導要領改訂に向けて

総合探究（自己の在り方生き方）を課題研究の導入として位置付ける



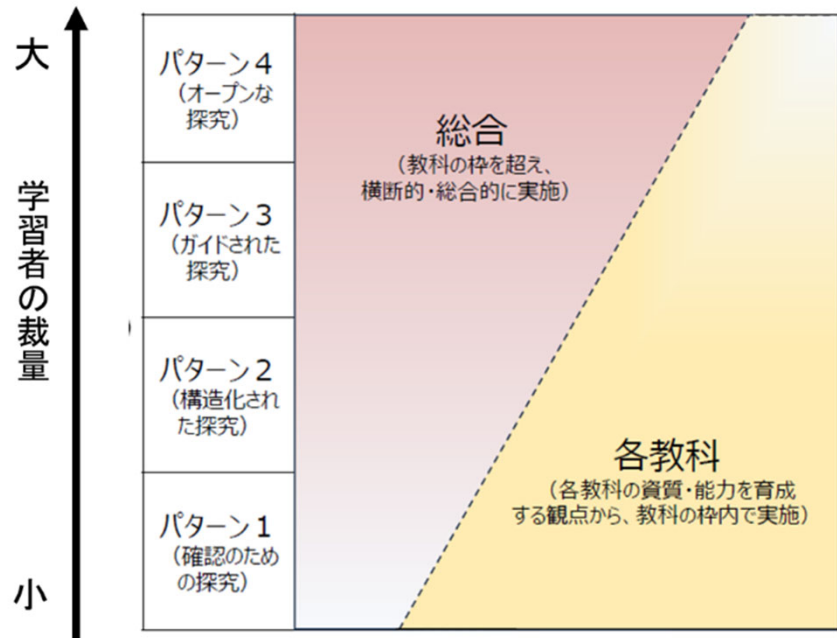
教育課程部会 > 産業教育WG資料 (2025年12月16日) →

本日の内容

- ① 情報活用能力を基盤として総合的な学習・探究の質を高める
- ② 質の高い探究的な学びの実現を目指して
- ③ 学習者の裁量による「探究」「探究的な学び」

「探究」「探究的な学び」 習得・活用・探究を回す、総合から各教科へ

「生活総合WG 第3回」 (2025年12月26日)

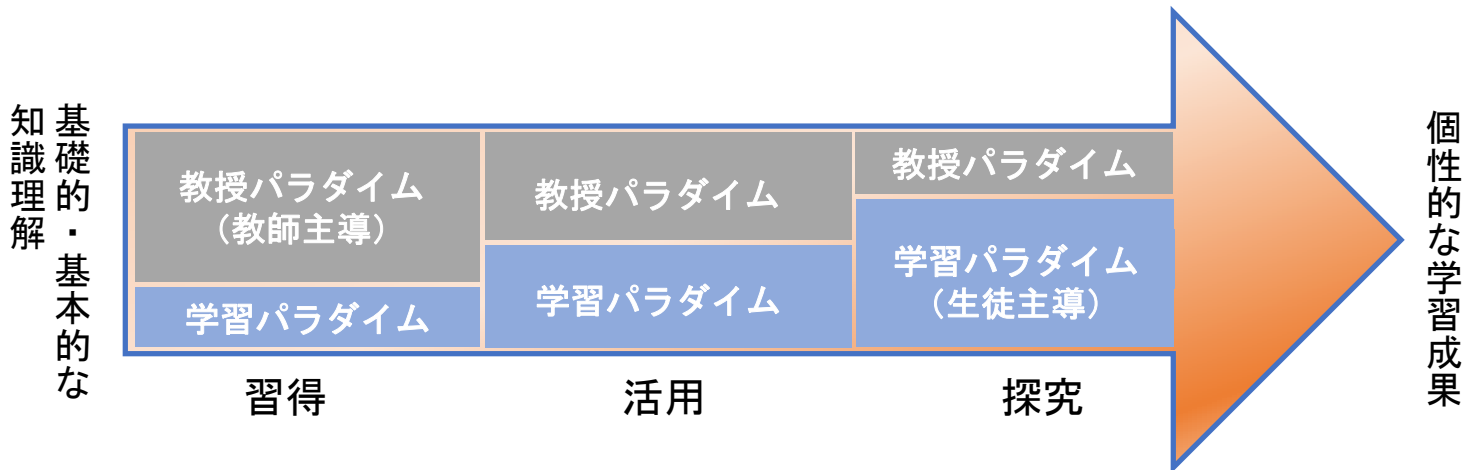


学習者が自己決定できる裁量の高まり

	問い・課題	手続き	成果
パターン4 (オープンな探究)			探究
パターン3 (ガイドされた探究)	✓		探究的な学び (各教科におけるいわゆる パフォーマンス課題等を含む)
パターン2 (構造化された探究)	✓	✓	
パターン1 (確認のための探究)	✓	✓	✓

教授学習パラダイムと 習得・活用・探究

(学習指導要領『平成20(2008)年改訂』)



(文献) 溝上慎一 (2020). 社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー— 東信堂

審議まとめの方向性

- ①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー
- ③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

